

2025 年 8 月 24 日 (日)

日本キリスト教団 **久宝教会**

第 68 巻第 19 号 (通算 3456 号)

教会設立 1959 年 6 月 14 日

〒581-0072

大阪府八尾市久宝寺 6 丁目 7-10

TEL 072-992-2131 FAX 072-992-2135

郵便振替: 00980-5-212130 「日本基督教団久宝教会」

【集会案内】こどもの礼拝: 毎日曜 10:00-10:20 何かお悩みがありましたらご遠慮なくご相談ください
主日礼拝: 毎日曜 10:30-11:30 小さい子どもたちも、いつでも歓迎いたします。

しゅうほう
週報

教会標語

ちい ひと
小さくされている人を
たいせつ きょうかい
大切にする教会



ホームページ「久宝教会」
(ウェブサイト)

<http://www.koinonia.or.jp/kyuhokyokai>

【連絡先(牛田)】090-9161-4027

kyuho-church@koinonia.or.jp

この「確かさ」は当て外れということがありません。私たちが頂いている聖霊の働きによって、人を大切にする神の思いが、すでに私たちの心に注がれているからです。(ローマ5:5)

せいれいこうりんせつ
聖霊降臨節
だい しゅじつれいはい
第12主日礼拝

れいはい ちゅうけいはいしん
《礼拝はインターネットで中継配信いたします。ホームページにてどなたでもご視聴いただけますので、それぞれの場所で共に礼拝をして頂けます》

ぜんそう もくとう AVE VERUM CORPUS (©著作権消滅)

まね ことば エレミヤ書 20 章 9 節

さんびか ばん のぞ ちよさくけんしやうめつ
賛美歌 21-566 番「むくいを望まで」(©著作権消滅)

せいしよ しとげんこうろく 20 章 17-35 節

いの
お祈り

さんびか ばん まぶね なか
賛美歌 21-280 番「馬槽の中に」(©JASRAC)

メッセージ「もらうより、分け合う方がよい」 牛田 匡 牧師

さんびか ばん へいわ どうぐ
賛美歌 21-499 番「平和の道具と」(©JASRAC)

しゅいの ばん てん ちち さんびかかいていいんかい
主の祈り 21-62 番「天にいます わたしたちの父」(©讃美歌改訂委員会)

ささげもの
献げ物 (*)

はけん ばん かみ めぐ う せつ
派遣 21-91 番「神の恵みゆたかに受け」(1 節のみ) (©JASRAC)

しゅくふく うしだ ただし ぼくし
祝福 牛田 匡 牧師

こうそう ばん きやうだんさんびかいいんかい
後奏 アーメン コーラス (21-40-6 番) (©教団讃美歌委員会)

ほうこく ページ さんしやう
報告 (4 頁をご参照ください)

せき すわ れいはい さんか
《席にお座りになったままで礼拝にご参加ください》

うけつけ けんきんばこ
* 受付に献金箱がございます。

ささげもの けんきん ようい かた ささ
「献げ物 (献金)」はご用意のある方のみ、お献げください。

招きの詞 エレミヤ書 20章 9節（聖書協会共同訳）

私が、「もう主を思い起こさない／その名によって語らない」と思っても
主の言葉は私の心の中／骨の中に閉じ込められて／燃える火のようになります。

聖書 使徒言行録 20章 17-35節（聖書協会共同訳）

¹⁷ パウロはミレトスからエフェソに人をやって、教会の長老たちを呼び寄せた。
¹⁸ 長老たちが集まって来たとき、パウロはこう話した。「アジア州に足を踏み入れた最初の日以来、いつも私があなたがたとどのように過ごしてきたかは、よくご存じです。¹⁹ すなわち、謙遜の限りを尽くし、涙を流しながら、また、ユダヤ人の数々の陰謀によってこの身に降りかかって来た試練に遭いながらも、主にお仕えしてきました。²⁰ 役に立つことは一つ残らず、公衆の面前でも方々の家でも、あなたがたに伝え、また教えてきました。²¹ 神に対する悔い改めと、私たちの主イエスに対する信仰とを、ユダヤ人にもギリシア人にも力強く証ししてきたのです。²² そして今、私は霊に促されてエルサレムに行きます。そこでどんなことがこの身に起こるか、何も分かりません。²³ ただ、投獄と苦難とが私を待ち受けているということだけは、聖霊がどこの町でもはっきりと告げてくださっています。²⁴ しかし、自分の決められた道を走り抜き、また、神の恵みの福音を力強く証しするという主イエスからいただいた任務を果たすためには、この命すら決して惜しいとは思いません。

²⁵ そして今、あなたがたが皆もう二度と私の顔を見ることがないと、私には分かっています。私はあなたがたの間を巡回して御国を宣べ伝えたのです。²⁶ だから、特に今日はっきり言います。誰の血についても、^a 私には責任がありません。
²⁷ 私は、神のご計画をすべて、余すところなくあなたがたに伝えたからです。²⁸ どうか、あなたがた自身と羊の群れ全体とに気を配ってください。聖霊は、神が^b ご自身の血によってご自分のものとなさった神の教会の世話をさせるために、あなたがたをこの群れの監督者に任命されたのです。²⁹ 私が去った後、残忍な狼どもがあなたがたのところへ入り込んで来て群れを荒らすことが、私には分かっています。³⁰ また、あなたがた自身の中からも、邪説を唱えて弟子たちを従わせようとする者が現れます。³¹ だから、私が三年間、あなたがた一人一人に夜も昼も涙を流して教えてきたことを思い起こして、目を覚ましていなさい。

³² そして今、あなたがたを神とその恵みの言葉とに委ねます。この言葉は、あなたがたを造り上げ、聖なる者とされたすべての人々と共に相続にあずからせることができるのです。³³ 私は、他人の金銀や衣服を貪ったことはありません。³⁴ ご存じのとおり、私はこの手で、私の必要のためにも、共にいた人々のためにも働いたのです。³⁵ あなたがたもこのように労苦して弱い者を助けるように、また、主イエスご自身が『受けるよりは与えるほうが幸いである』と言われた言葉を思い出すようにと、私はいつも身をもって示してきました。」

（脚注 a：直訳「私は清い」、b：別訳「御子の血」）

《先週のメッセージより》2025年8月17日

「他人事か、自分事か」

牛田匡牧師

聖書 マタイによる福音書 9章35節－10章16節

今回のお話は、イエス様が弟子たちを宣教に派遣したというお話でした。「宣教」というと、「教えを伝える」ことのように誤解されるかもしれませんが、「天の国の福音を宣べ伝え、ありとあらゆる病気や患いを癒された」(9:35)とあるように、「福音の宣教」と「病の癒し」はセットであり、同義でした。目の前で「病が癒され、死んだようになっている人が引き起こされ、規定の病を患っていた人が清められたと宣言され、悪霊に取りつかれていた人が悪霊を追い出された」(110:7-8)、それがまさに天の国の実現という「福音(良い知らせ)」であったわけです。そして、そのような能力を与えられた弟子たちもまた、あなたたちも「ただで受けたのだから、ただで与えなさい」(8)とされている通りに、かつてはそれらが無償で受けた人たちに他なりませんでした。

弟子たちを派遣するにあたり、イエス様は「蛇のように賢く、鳩のように無垢でありなさい」(10:16)とされていますが、蛇は体全体で地面を這いまわり、全身で周囲の状況を感じ取るように見えますので、そのように「感性鋭く」、鳩のように純粋で率直でありなさい、とされているのだと理解できます。イエス様が弟子たちに伝えた、宣教において一番大切なものは何かと言うと、それは「人の痛みに共感する感性、センス」ということだったのではないかと思います。イエス様も弟子たちも、ろくに何も持っていないような状態であったからこそ、同じような状況の人たち、その日の糧を得るのに腐心している人たちの存在や、その心配事に気が付き、共感し、「放っておけない」と言って近づき、声をかけ、そして手を取り、持っている物を分かち合い、共に食事をしたのだと思います。

人は一人では生きられませんが、隣に友がいれば、たとえ足りないものがあったとしても、互いに分かち合い工面し合って、生きていくことができます。イエス様が他人事を自分事として感じ、友のない人の友となったように、一人一人がつながり合い、互いの命が生かされ、大切にされる天の国は、わたしたちが「今ここに」(ルカ 17:21) 実現するもの、神様と共にあって実現し得るものだという事を、聖書は私たちに告げています。自分自身の中に終始してしまうのではなく、お互いに「自分事」の範囲を少しずつ広げていき、共に活かし合える天の国を、今日ここにも実現していくように、私たちは一人ひとり用いられていきます。

毎週の「メッセージより」は、ウェブサイト等にも順次掲載されています。

ホームページ



Facebook



YouTube



◎ 先週の報告 2025 年 8 月 17 日

礼拝出席 大人 3 人 献金 大人 2,500 円 中継視聴者数 12 回 感謝

◎次週 2025 年 8 月 31 日（日）聖霊降臨節 第 13 主日礼拝

招きの詞 マタイによる福音書 12 章 49-50 節

聖書 コロサイの信徒への手紙 3 章 18 節-4 章 1 節

メッセージ 「相手の中に神を見る」牛田匡牧師

賛美歌 21-162 番 (©塩田)、21-393 番 (©教団)、「風と歌う」(©JASRAC)

礼拝の中で、今年度 8 月生まれの方々の誕生者祝福式を行います。

◎お知らせ

- ・本日の礼拝後に、釜ヶ崎支援のために「おにぎり」を作って、いこい食堂にお届けして、お配りする予定です。どなたでもご参加ください。
- ・これまでの「週報」や「メッセージ（全文）」はホームページに掲載しています。また中継録画のメッセージ部分を YouTube でご覧いただくことも可能です。
- ・8 月 30 日（土）14 時～15 時半にかけて、関東大震災時の朝鮮人・中国人虐殺事件の 102 年目の祈祷集会「わたしたちは今年も忘れない」が、東京にある日本基督教教会館にて開催されます。オンラインでの参加も可能です。2023 年と 2024 年に開催した関東大震災朝鮮人・中国人虐殺犠牲者キリスト者追悼集会を通して、私たちは当時の状況への理解を深め、あの虐殺(ジェノサイド)が、なぜ起こったのかを学びました。背後にあったのは朝鮮人への侮蔑的な風潮であり、それを広めたのは軍隊や警察などのいわゆる行政でした。そのような中で、教会はどうだったのか。私たちには自らを省みなければならないと深く問われています。排外主義が急速に強まりつつある現状の中で、日本社会が、そして私たちが再び同じ過ちを犯さないために、あの虐殺の歴史と向き合い、生き方の問い直しと追悼の祈りの時を共に守りましょう。

ラップ：FUNI/郭正 勲さん

メッセージ：金迅野さん

(在日大韓基督教会 横須賀教会牧師)
参加費は無料です。オンラインでの参加を希望する方は、下記の URL、右の QR コードよりお申込み下さい。

<https://forms.gle/mB4MmVcCjcCzTEr36>

◎次週以降の行事予定

	メッセージ	行事
8/31	牛田匡牧師	誕生者祝福式
9/7	牛田匡牧師	ユウカリスト教会を考える会
9/14	牛田匡牧師	敬老の日礼拝
9/21	牛田匡牧師	誕生者祝福式 おにぎり支援

2023年と2024年に開催した関東大震災朝鮮人・中国人虐殺犠牲者キリスト者追悼集会を通して、私たちは当時の状況への理解を深め、あの虐殺(ジェノサイド)がなぜ起こったのかを学びました。背後にあったのは朝鮮人への侮蔑的な風潮であり、それを広めたのは軍隊や警察などのいわゆる行政でした。そのような中で、教会はどうだったのか。私たちには自らを省みなければならないと深く問われています。排外主義が急速に強まりつつある現状の中で、日本社会が、そして私たちが再び同じ過ちを犯さないために、あの虐殺の歴史と向き合い、生き方の問い直しと追悼の祈りの時を共に守りましょう。

日時: **2025年8月30日(土) 14:00～15:30**
会場: **日本キリスト教会館4階会議室**
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18

ラップ: FUNI/郭正 勲さん
メッセージ: 金迅野さん
在日大韓基督教会 横須賀教会牧師

参加費無料・申込不要(会場での献金があります)
オンライン参加も可能です。以下のGoogleフォームでお申し込みください。
 <https://forms.gle/mB4MmVcCjcCzTEr36>

メールでご連絡の際は、タイトル名「追悼祈会オンライン申し込み」で下記お問い合わせアドレスまで。申込者にオンライン情報をお送りいたします。申し込み締め切り8月29日。
お問い合わせ: general@ncc-j.org 日本キリスト教協議会(NCC)

呼びかけ: NCC東アジアの和解と平和委員会
賛同(順不同 8/11現在):
在日大韓基督教会、NCC教育部、
礼拝で憲法を読む「103人の集い」実行委員会、
日本聖公会正義と平和委員会、日本聖公会日韓協議会、
外国人住民基本法の制定を求める全国キリスト教連絡協議会、
日本キリスト教会、常設トンネル追悼式実行委員会、在日韓国人問題研究所(RAIK)、
NCC在日外国人の人権委員会、日本バプテスト連盟日韓・在日連帯特別委員会、
NCC韓国神社管理委員会、キリスト友会、マイノリティ 宣教センタ、
平和を支援するキリスト者ネットワーク、全国キリスト教学校人権教育研究協議会、
日本カトリック正義と平和協議会

「わたしたちは今年も忘れない」

関東大震災朝鮮人・中国人虐殺犠牲者102年キリスト者追悼祈会

